

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



ご挨拶

秋から冬へ

前回のご挨拶は「夏の暑さがきつくないことを祈りながら」で終わりました。しかし、今年も猛暑の夏になってしまいました。

十月も半ばを過ぎて百日以上も続いた夏日もようやく終わり、待ちに待った秋が来たという感じがします。大活躍した半袖シャツもやっとお役御免になりました。

秋の季語に「釣瓶落し」というのがあります。角川大歳時記には「秋の日がたちまち暮れていくさまをいう。よく『秋の日は釣瓶落し』といわれる。これは秋の落日を、まっすぐに井戸に落ちていく釣瓶に喩えたもの。この喩えから、

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

『釣瓶落し』だけでも秋の季語として充分通じるだろうとした山本健吉の説に、俳人が賛同し新しく定着した季語である。（蘭草慶子）」とあります。

豊かな収穫、実りの季節ではありますが、ゆっくりとものさみしく憐れな風情となるのが秋とされています。「ゆっくりと」が大事なのです。秋になった途端に寒さが身に沁むようなありさまでは、がっかりしてしまいます。釣瓶落しは「秋のお日様」ではなく「秋そのもの」のように思ってしまうのは私だけではないはずです。

暑さで疲れた身体のまま、厳しい冬に立ち向かうのは誰にとっても大変なことです。十分な栄養と休息を摂るように心がけましょう。それとインフルエンザのワクチンに手伝ってもらうのもいい考えです。

■「もみじの家」10周年記念イベント

秋晴れの2025年11月14日(金)、国立成育医療研究センター講堂で「もみじの家」創設10周年記念式典が開催されました。記念式典には厚生労働省、こども家庭庁を代表された方々や世田谷区長ら約100名が招かれ、キッズファム財団からも細谷理事長をはじめ職員・ボランティアが参加いたしました。



「もみじの家」創設の第一の功労者である喜谷昌代さんのご家族(喜夫さん・安喜さん・チャールズさん・ルークさん)も英国から駆け付けられ、キッズファム財団を代表して喜夫さんが登壇されました。10周年への祝辞とともに、

創設前からの昌代さんのご苦労話や熱い思い・エピソードなどをお話してくださいました。

式典に続き懇談会が催され、昌代さんの遺影に見守られながら、成育・もみじの家・キッズファム財団関係者が10周年を祝い、招待者との懇親を深めました。キッズファム財団としてはこの式典に際し、喜谷昌代の半生を描いた「History of KIDANI」という小冊子を制作しました。この冊子は、キッズファム通信で12回にわたり連載されていたコラムを基に、初めて公開する写真を織り交ぜて再編集



したもので、ご招待客に配布されました。



また懇談会と並行して、もみじの家のプレイルームでは、利用者ご家族や招待客ご家族を対象に「ホスピタルシアタープロジェクト」によるパフォーマンスがありました。キッズファム財団では、ボランティアによるキッズファム・カフェを開催しました。ご家族だけでなくパフォーマーの方々にも好評でした。

またキッズファム財団とパートナーシップを持ち、寄付者でもあるハフルート社日本法人代表のマイケル・ブラッドリーご夫妻も式典に招待されており、もみじの家とキッズファム財団オフィスを初めて視察されました。もみじの家の設備や財団の活動を熱心に聞き入ってくださいました。

次は15周年？
20周年？・・・
成育・もみじの家・キッズファム財団が、ますます発展することを願っています。



■喜谷ファミリーを囲む会開催



もみじの家創設10周年記念式典参列のために来日していた喜谷ファミリーを囲んで、式典の前日11月13日(木)の夜に成育近隣のレストランで「喜谷ファミリーを囲む会」を開催いたしました。喜夫さん・安喜さん・チャールズさ

ん・ルークさんを囲み、成育の医師・看護師、もみじの家スタッフ、財団職員・ボランティア等、総勢27名が集まりました。

久しぶりに旧交を温めた方々、今回が初対面の方々等、皆さんが交流・懇親を深めておられました。

また、長きにわたり財団の業務執行理事を務められ、この6月で退任された大川周二さんの「お疲れ様会」も併せて開催いたしました。大川さんは引き続き、理事として残られ、財団の活動に関わっていただいております。



☆財団の主な活動のご紹介

■写真展「いのち」輝く ～ファミリーフォトプロジェクト～

支援事業の一つとして、家族写真を撮影しプレゼントする“ファミリーフォトプロジェクト”があります。撮影した写真の中から、ご家族より使用許可をいただいたものを展示しています。

写真を通して、重い病気を持つお子さんとご家族について知っていただけることを願っています。

●世田谷美術館 区民ギャラリー 10月7日～12日

写真パネル13点とキッズファム通信表紙原画8点を展示しました。来場者数は例年より少なく、静かな会場でしたが、一つひとつ熱心にご覧くださる方や質問をしてくださる方がありました。また福祉制度についての意見やご自身の育児体験、将来目指していることなどを話してくださる方がいて、写真が何かを思い起こすきっかけになっているのを感じました。



●聖心女子学院 “みこころ祭”

(聖心女子学院中・高等科の文化祭) 10月11日

みこころ会社会福祉部の皆様、会の活動である「役員会ミニバザー」(9月20日)、学院の文化祭での「みこころ会館ティールーム」(10月11日)において、ファミリーフォトプロジェクトで撮影した写真を展示してくださいました。東京都港区にある聖心女子学院は、当財団創設者、喜谷昌代の母校です。後輩の皆様にあたたためて喜谷の功績と重い病気を持つ子どもと家族のことを知っていただく機会となりました。



●NHK放送技術研究所 技研ギャラリー 7月28日～8月22日

平日は誰でも自由に入れる場所ですが、あまり知られていないようで、来場者の多くは職員・関係者や“たまたま”という方です。しかし回を重ねることで「毎年、楽しみにしています。」という声をいただきました。また、「心からの笑顔が素敵で背中を押されます。」「最近、こんな笑顔を見えさせてないな…、ハッと気付かされました。」などの感想をいただきました。



●新宿区立子ども総合センター ここ・からまつり 11月9日

毎年、秋に開催される新宿区立子ども総合センター“ここ・からまつり”の会場内に家族写真を展示しています。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方が来場、会場はおまつりを楽しく笑顔で溢れました。「あー、成育で見た写真!」と立ち止まってくださったご家族、お子さんが受診されているそうです。



常設イベント

●国立成育医療研究センター ロビー 通年

病院玄関を入ったところに、一年を通して写真を展示しています。緊急入院になってしまったお子さんのご家族より、「うちの家族の写真が展示してあり、とてもうれしかった。」という言葉をいただきました。また、“アンケート”には、写真に対する感想と共に財団活動に対するエールも寄せていただいています。“あたたかさ”の輪が繋がっていくようです。



ご協力いただいたご家族の皆様、写真を見てくださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。

■第31回キッズファムライブ in もみじの家



6月13日(金)、もみじの家2階で「第31回キッズファムライブ in もみじの家」を開催しました。認定NPO法人朴の会音楽とどけ隊の皆様による美しい演奏と歌です。

もみじの家のボランティアから届いた、かわいい音符付バルーンがステージを飾りました。

参加者はもみじの家利用家族16名と、もみじの家スタッフです。司会を高校1年生のSさんが務めてくれました。ちょっと照れながらも上手に進行、練習してきてくれたそうです。

音楽とどけ隊のテーマソング「歌はともだち」から始まり、季節の歌・歌劇の一曲・手遊び歌など、8曲を演奏してくださいました。美しい演奏にうっとり、リズムに合わせて体を

動かし、心地よいひとときでした。最後に当日が誕生日の「君のために“ハッピーバースデー”」の演奏、プログラムにはないサプライズで、自然に会場全体の合唱となり、みんなで誕生日をお祝いする素敵なひとときになりました。

ライブ終了後、演奏者控室に「ありがとう」と書いたメッセージを届けてくれたお子さんがいました。ご家族からは「楽しかった。」「快い時間だった。」「親子共々、心がすこやかになりました。」等の感想をいただきました。スタッフからは「緊張の強いお子さんがライブ中は緊張なく過ごすことが出来た。」「感動して涙が出そうだった。」「子どもたちが楽しそうに、それぞれの方法でリズムをとっていた。」等の言葉がありました。「音楽の力」を実感するライブでした。



■成育盆踊りに今年も参加！



8月2日(土) 猛暑の日の夕刻、成育医療研究センター中庭で「盆踊り」が開催されました。成育のスタッフや地域の方々が出店されており、財団は昨年好評だった「輪投げゲーム」で参加しました。子どもたちを中心に親御さんも含めて、長い行列ができるほどの大盛況となり、地域の子どもたちだけでなく、成育の外来患者や「もみじの家」利用者

も輪投げにチャレンジしてくださいました。

今年は輪投げへの参加料を募金とさせていただきます形式にしましたので、総額22,386円の募金を集めることができました。

輪投げ参加者には、ボランティアの方々の手作りによる景品を差し上げました。

財団にとって、恒例の「夏のイベント」として定着していくことを願っております。



■医療的ケアイベント出展

10月26日(日)にHi・na・ta様主催のイベント「大集合！医療的ケア支援事業所@世田谷区」が成育医療研究センターの講堂で開催され、財団として今年も出展しました。7名のボランティアの方々が参加してファミリーフォトやポスターを展示し、通信・リーフレット・ラジオのフライヤー等を配布しつつ、財団の活動紹介をしました。



当日は生憎の雨模様で、残念ながらお客様は多くなかったですが、世田谷周辺地域で医療的ケア児に向き合っているさまざまな施設・団体の方々と情報交換ができました。

我々の存在はまだ知られていないことを認識しながらも、各事業所が多種多様な活動をされていることを知り、学び、刺激を受け、連携できることを模索していきたいと感じました。

■キッズファム・ラジオ ～病気のこども・家族と共につくるラジオ～



病気や障がいを抱えていても過ごしやすい社会を目指して、余谷暢之医師（国立成育医療研究センター 総合診療部 緩和ケア科 診療部長）と等々力寿純センター長（世田谷区 医療的ケア相談支援センターHi・na・ta）がパーソナリティとなり、皆さまからの声（ご質問、ご意見等）に答える形で番組を進めています。

ラジオと言っても、リスナーの皆さまにZoomウェビナーでご参加いただきながら番組を収録し、後日にYouTubeで配信するスタイルです。

2024年12月にスタートしてから2025年12月で第5回目となりました。今後も3ヶ月に1回（3、6、9、12月）収録と配信をしていく予定です。

この番組は皆さまからの声をもとに作られていますので、病院や地域で暮らす中で嬉しかったこと、楽しかったこと、よかったこと、ほかのお友達や家族と共有したいこと、困っていることや一緒に考えたいこと、その他どのようなことでも、どんどんお寄せください。匿名やペンネームで構いません。番組中に流して欲しいリクエスト曲も受けつけています♪



第1回～第5回の
キッズファム・
ラジオのご視聴
はこちらから



声とリクエスト
曲はこちらから



ご家族からのお便り「音楽の力・写真の力・笑顔の力」 朽木 信尚・佳代子（陽菜）



娘の陽菜（ひな）は、2020年11月に成育医療研究センターで生まれ、今日まで多くの方に支えられながら元気に過ごし、今年5歳になります。

3歳の頃から休暇を利用して年2回ほど、もみじの家に家族で宿泊しています。畳の部屋で寛ぎ、一緒に大きなお風呂に入り、安心感の中で旅行気分を味わうことができて、とても充実したひと時です。娘も朝の会でポッチャや季節の制作に参加したり、キッズファムカフェでマッサージをしていただいたりと、新しい体験にやや緊張しながらも満足そうな顔を。黄色のソファがお気に入りの場所です。

娘は普段から音楽を聴くのが好きです。これまで2回「きらきらキッズフェスタ」に参加させていただきました。いつも上機嫌になり、きっと生演奏が持つ“音楽の力”が、娘を笑

顔にしてくれるのだと思います。君は愛されるため生まれた♪素敵な曲でした。

2024年4月、初めてもみじの家に宿泊したときに「ファミリーフォトプロジェクト」で素晴らしい家族写真を撮影していただきました。それまで、お宮参りや七五三でも神社にお参りするだけで、すぐに帰宅するため、写真館での記念撮影はしていなかったもので、私たちの大切な宝物です。

2025年8月、約1カ月間の急な入院となりました。入院初日から退院日までその時の写真が病院内に飾られており、心配なことも多かったのですが、面会に行くたびに写真を眺め、写真が応援してくれてるから大丈夫だと“写真の力”を信じました。

これからも、もみじの家とキッズファム財団のイベントで楽しい時間を過ごしていきたいと思います。皆様の“笑顔の力”は本当に温かく、いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。今後ともよろしく願いいたします。



きらきらキッズフェスタにて



英国だより (14)

英国に秋が訪れて、グリニッジ標準時に戻るこの季節、各地でさまざまな伝統行事が行われます。教会や学校、農場では収穫祭（ハーベスト・フェスティバル）が開かれ、人々が一年の実りに感謝をささげます。

今年はまた、世界的に愛される小説家ジェーン・オースティンの生誕250周年でもあり、ゆかりの地バースやハンプシャーでは記念展や特別イベントが行われました。こうした催しは、歴史と文化、そして地域のつながりが今も英国の暮らしを形づくっていることを思い起こさせます。



この「感謝」と「ふりかえり」の季節に、MOMIJI UKとしては、メドウェイ日本交流プログラムを8月に再び支援できたことを大変うれしく思います。このプログラムは、イングランド南東部ケント州メドウェイ地域と日本を結ぶ友情を深めており、その歴史は400年以上前に日本に渡った航海士「ウィリアム・アダムス（三浦按針）」に遡ります。

毎年、メドウェイから選ばれた4名の学生が、三浦按針とゆかりのある日本の伊東市と横須賀市を訪問します。約2週間の滞在で、学生たちは神社仏閣や学校を訪ね、伝統文化の体験や国際ユースフォーラムへの参加など、多彩な活動を行いました。



Medway students are met on arrival in Itō (伊東にて)

ある学生は「観光ではなく、人との“つながり”を感じることができた」と語り、別の学生は「言葉の壁があっても、努力すればその思いは伝わる」と話しています。4人全員がホストファミリーの温かいもてなしに感謝し、自信と独立心、そして日本文化への理解を深めました。

MOMIJI UKは、今年の交流事業に資金面・運営面で協力できたことを誇りに思います。

2019年の再設立以来、創設者である喜谷昌代の志を受け継ぎ、若者たちが世界を知り、人との絆を育む機会を広げられました。6月に行われた「UK駅伝リレー」と並び、このメドウェイ交流は私たちの活動を象徴する大切なプロジェクトです。

「日本での経験は、他の文化だけでなく、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。生涯の友人を得ることができました。」－参加学生の言葉より

次の交流は2026年に予定されています。MOMIJI UKはこれからも、英国と日本をつなぐ若き親善大使たちを支え、友情の輪を未来へとつないでいきます。

* ルーク・オルバーは財団創設者の喜谷昌代のお孫さん



ルーク・オルバー
MOMIJI UK Trustee (評議員)



Celebration of the exchange in Medway (メドウェイにて)

貴重なオンライン万博体験

4月に開始された万博は大きなニュースになりましたが、病弱な子どもを持つ親は会場への来場を悩んでいたのではないのでしょうか。その為、「どこでも万博」の体験は私達親子にとって貴重な経験になりました。

当日は一般客入場前の9時通信開始。“temi”というロボットに乗り込んで、シグニチャーパビリオン「いのちの未来」を巡り、50年後はアンドロイドに自分の記憶を託し存在し続けるかどうか選べる時代、という興味深い展示で

押尾愛子

(右/元利用者ご家族・財団ボランティア)

した。事前練習があり、安心して参加することが出来ましたし、参加後も動画提供など丁寧な対応をしてくださいました。

慢性疾患を持つ子どもは成人しても人混みは避けたいため、18歳以降もこうしたオンライン参加型イベントに参加出来るの良いなと願っています。



昌代さんと私 ―第5回―

私が初めて喜谷昌代さんにお会いしたのは、2009年5月、世界初の子どもホスピスである「ヘレン・ダグラス・ハウス」の子どもたちが来日し、国立成育医療研究センターに関係者が集まった時でした。当時、私はひばりクリニックで小児の在宅医療を行う傍ら、「うりずん」を開設し、医療的ケア児の日中レスパイトケアを行っていました。聖路加国際病院の細谷亮太先生や、あおぞら診療所の前田浩利先生らとともに、子どものホスピスについての活動をしていたことから、その集まりに参加していたのです。



2017年 写真展の後、うりずんへ。前列左から高橋、昌代さん。後列左から喜夫さん、石井さん（キッズファム財団）

時は流れ、2017年11月に、キッズファム財団主催の写真展「生きる喜び―重い病気を持つ子供と家族の日々」が、宇都宮大学構内で開催されました。その際、財団からお声をかけていただき、写真家の廣田比呂子さんがうりずんを訪れ、

認定特定非営利活動法人うりずん理事長 高橋 昭彦

うりずんの子どもたちの写真も展示していただきました。写真展には、多くの方が足を運んで下さいました。

昌代さんがうりずんに来て下さったのは、写真展を開催中の時でした。うりずんの子どもたちにも、私たちにも、あたたかな言葉をかけていただきました。私は子どもの家を訪問する時や子どもと遊ぶ時は、季節に応じたかぶりものをするのですが、思い切ってお願いしたところ、昌代さんは、「ナス」のかぶりものをかぶって、快く写真撮影に応じて下さったのです。昌代さんのお人柄に感激しました。

2018年には、ロンドンに滞在していた娘を訪れる機会があり、その際ヘレン・ダグラス・ハウスとマギーズセンター・オックスフォードを見学したいとご相談したところ、調整と通訳の方を手配してくださったのです。お蔭様で、私は2つの施設の見学で学びを深めることができ、見学のあとは喜谷さんご夫妻にご挨拶させていただくこともできました。心

づくしの歓迎をしていただき、心より感謝いたしております。昌代さんからいただいたホスピタリティを胸に、これからも精進していきたいと思います。



2018年 喜谷邸にて。前列中央が昌代さん。後列左から、妻、娘、高橋、喜夫さん

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2025.4.1 ~ 2025.9.30)

敬称略

秋前 秀樹 / 秋前 里依菜 / 朝野 春美 / 芦澤 昌子 / 畦上 恭彦 / 荒木 篤志 / 安西 恵美子 / 川勝 美樹 / 飯泉 希世子 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 池田 琢哉 / 池山 三重子 / 石井 由美子 / 石田 篤子 / 石原 晶世 / 石山 正子 / 伊藤 啓子 / 伊東 ふじ子 / 稲井 真貴子 / 清香 / 稲垣 いく子 / 伊野 公基 / 五十子 敬子 / 岩佐 敏子 / 岩間 陽一郎 / 植田 栄子 / 上野 博 / 悦子 / 上村 恵一 / 宇川 俊和 / 梅木 孝治 / 梅澤 明弘 / 榎本 陽子 / 大内 優香 / 大川 周二 / 太田 由加里 / 大西 智子 / 大野 隆史 / 大矢 直輝 / 岡田 那美枝 / 小川 知恵子 / 小澤 英子 / 尾島 伶子 / 小田 康之 / 越智 和博 / 小野 美穂・篤 / 高子 喬 / 片山 成美 / 片山 ます江 / 勝川 恵子 / 加藤 祈世子 / 金澤 開作 / 金子 立 / 金田 永子 / 鎌田 千津子 / 亀山 厚也 / 亀山 聡子 / 川辺 優子 / 菅野 哲介 / 岸井 淳子 / 岸本 晃子 / 北澤 泰 / 工藤 加寿子 / 工藤 隆司 / 熊谷 一夫・澄子 / 栗原 喜久子 / 五嶋 くみ子 / 児玉 桂子 / 小峰 万木子 / 佐々木 葉子 / 笹嶋 真理子 / 佐藤 千鶴代 / 佐藤 マリ子 / 澤渡 美保 / 澤村 明子 / 篠原 実 / 島谷 美成・恵以子 / 清水 佳代子 / 新藤 由喜子 / 須崎 ゆかり / 鈴木 牧子 / 鈴木 佑子 / 関根 龍一 / 園部 真志 / 高草木 多佳子 / 高橋 里江 / 高橋 貞二郎 / 高橋 雅江 / 田川 元子 / 田口 秀子 / 竹内 陽子 / 田代 洋子 / 田原 康生 / 玉井 祥子 / 津田 由美 / 土屋 幸子 / 土居 和子 / 所 昭宏 / 友岡 宏江 /

長島 日出男 / 長瀬 淑子 / 中田 俊行 / 中谷 桂子 / 中野 喜久子・由美子 / 中野 弘子 / 西川 博子 / バーランド 和代 / 原田 純子 / 樋口 浩康 / 日高 淑子 / 平田 恭信 / ファリーダ ラーマン / 福神 規子 / 藤井 克徳 / 藤岡 康 / 藤田 学 / 古澤 育恵 / 平馬 慶子 / 堀内 成子 / 前垣 義弘 / 前田 浩利 / 牧野 みどり / 増田 美鶴 / 松坂 ヒロシ / 三浦 正充 / 水野 正望 / 村尾 奈央 / 村上 紀子 / 森部 加奈子 / 森山 邦代 / 森山 誠二 / 守家 李衣 / 門田 檀 / 山口 栄一 / 山田 史郎 / 山羽 啓子 / 山本 尚子 / 吉田 三恵子 / 渡辺 泰子 / イニシャル15名 CY/HM/JY/KF/KH/KJ/KK/KS/KT/KT/MS/ST/TK/YS/YS 匿名19名

【お宝エイド】奥松 英幸 / 藤本 志のぶ / 山田 史郎 / 野畑 友哉
ご寄付いただいた企業・団体

コーユーレンティア株式会社 / CCCMKホールディングス株式会社 / 首都開発株式会社 / 宗教法人成勝寺 / 聖心女子学院みこころ会社会福祉部 / TKアシスタントサービス合同会社 / 東京アーバンコンサルティング株式会社 / 日本基督教団三軒茶屋教会

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000円
- ② パートナー会員 1口 10,000円
- ③ サポーター会員 1口 3,000円

※ 1口から何口でもお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替

00140-0-420461

2. 三菱UFJ銀行 成城支店

普通 0233800

3. クレジット決済 (QRコード)



- ★ 三菱UFJ銀行に初めてご送金いただいた方は、メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。

一お知らせ

- ★ 2026年2月14日(土)、東京都世田谷区の大蔵第二運動場体育館にて第3回「きらきらキッズフェスタ」を開催します。親子で楽しい時間が過ごせる音楽中心のイベントです。詳細は財団のウェブサイトなどでご案内いたします。
- ★ Vポイント募金にご協力をお願いします。従来のTポイント改めVポイントをお持ちでしたら、キッズファム財団に募金いただくことが可能です。「Vポイント募金」で検索ください。
<https://donation.tsite.jp>



“Friends of KidsFam” 財団の仲間たち ④

公益財団法人 原田積善会 理事長 稲垣裕志

創設100年を超える助成財団です。様々な分野で全国の団体・個人を支援してきました。近年は、こども・若者の分野に注力しています。キッズファム財団との関係は、2013年に故喜谷昌代さんが、日本にこどもホスピスをつくりたいとの信念のもと、NPO法人の設立について助言を求め来会されたことに始まりました。

もみじの家、キッズファム財団が設立され活動をする中で、微力ながらご支援を続けてまいりました。この間のキッズファム財団の諸活動に最大限の賛辞を贈りたく思います。

私どもは休眠預金を活用する制度の資金分配団体として、各地のこどもホスピス5団体に3年間支援を行いました。この過程で「日本のこどもホスピス」という冊子を作成し、こどもホスピス運動を後押し致しました。



編集後記

キッズファム通信No.18をお届けします。2026年4月に10周年を迎える「もみじの家」の祝賀イベントが2025年11月にありました。当財団も5月に設立後10周年を迎えますが、時の流れの速さに驚くばかりです。今年もコンサート、写真展、ファミリーフォト、ラジオ、カフェなどの活動に参加して下さった皆さまに感謝いたします。

本号の表紙は、ロンドンの中心にあるデパートに飾られるアドベントカレンダーをテーマに描いてみました。この建物だけでなく街のあちこちにクリスマスデコレーションが飾られていて気分が上がります。窓から眺めているご家族も楽しそうです。

(大川)



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファム財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内



03-5494-1230

(平日10時～17時)



zaidan@kidsfam.or.jp

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください